

# 草の根通信

号外

## 第23回しまねサミット大会

速報



安来分科会には、ホイットフィールド船長の子孫、万次郎の子孫も参加。どじょう掬いも体験しました。

「第23回日米草の根交流サミット2013しまね大会」は、2013年7月2日から7月8日まで、神話の故郷、島根県内各地で開催されました。60年に一度の「大遷宮」を終えたばかりの出雲大社でのオープニング式典をはじめ、アメリカからの参加者達は、他では味わえないユニークな文化体験と、おもてなし精神に溢れた島根の方々のホスピタリティに感激の一週間を過ごしました。

大会参加者数： アメリカからの参加者：95名（うち83名がホームステイを含めた全日程参加）  
参加者総数：2,000名（日本からの参加者、現地のホストファミリー、ボランティア、ゲスト等を含む）  
イベント別参加者： 1) オープニング式典：230名 2) オープニング・レセプション：230名  
3) 地域分科会プログラム：500名 4) 学校等での特別交流：500名  
5) ボランティア：80名 6) キーパーソン&実行委員会：40名  
7) クロージング式典：200名 8) クロージング・レセプション：220名

7/2(火)	参加者、島根県松江市に到着	<ホテルー畑泊>
7/3(水)	午前： オプショナル・ローカル・ツアー [A: 松江周遊、B: 足立美術館と安来節、C: 由志園と鬼太郎ロード] 午後： オープニング式典(於: 出雲大社)とオープニング・レセプション(於: 島根ワイナリー)	<ホテルー畑泊>
7/4(木)	地域分科会へ出発	<ホームステイ>
7/5(金) ~6(土)	地域分科会プログラム	<ホームステイ>
7/7(日)	各地域から松江イングリッシュ・ガーデンへ移動、 クロージング式典とフェアウェルパーティ	<玉造温泉泊>
7/8(月)	成田へ向けて出発 またはオプショナル・プログラム(京都&東京、広島&高知&東京、仙台&東京、東京フリー)へ参加	

### 草の根交流サミット第3回同窓会 in しまね大会 (7月2日)

サミット大会オープニング式典の前夜には、過去のアメリカでの大会参加者や、CIE 賛助会員、草の根交流に関心のある方々約60名が集まり、出雲市の「ラピタ」にて盛大に交流が図られました。小泉八雲ご子孫の小泉凡教授による講演「ハーンが遺した日米の絆 - ホナー・フェーズと戦後の日本」に加え、地元ボランティアグループ「鳶巣銭太鼓サークルかぐや姫」による安来節体験レッスンや傘踊り、葦笛なども披露されました。



「どじょう掬い」レッスン



「傘踊り」を見ながら懇談



## 朝のミニ講座、ローカルツアーと抹茶体験 (7月3日)

松江到着翌日の7月3日の朝には、宿泊したホテル一畑の会議室にて、二人の講師によるミニ講演会(約1時間)を開催。アメリカからのほとんどの参加者が出席。小泉八雲ご子孫の小泉凡教授、また南コロラド日米協会会長のポール・マルヤマ氏の講演に、熱心に耳を傾けていました。



マルヤマ会長(左)と小泉教授



小泉凡教授による講演の様子



マルヤマ会長の話を熱心に聞く参加者達



松江周遊



由志園と鬼太郎ロード



足立美術館と安来節

午前 10 時には、3 つのオプション・ローカル・ツアーへ別れて出発。それぞれ特徴のあるツアーに、参加者達は大満足でした。

島根の抹茶と和菓子は全国的に有名。ツアーから戻ると、地元の和菓子店「風流堂」と、お茶の「中村茶舗」さんのご協力で、美味しい抹茶と和菓子がふるまわれました。また、全国一に輝く和菓子職人による芸術的な和菓子づくり実演も披露されました。



食べるのが惜しい程の芸術的和菓子づくり実演



着物ボランティアさんによるサービス



## オープニング式典 in 出雲大社 (7月3日)

3 日の夕方は出雲大社でのオープニング式典です。「大遷宮」という大きな祝賀行事を終えたばかりの出雲大社に参拝し、その後、仮拝殿にて執り行われました。



溝口善兵衛 県知事



千家尊祐 出雲大社宮司



長岡脩人 出雲市長



渡邊泰造 CIE 理事長



カート・トン米国大使館首席公使



マシュー・ペリー 提督子孫



TOMODACHI カリスバーグ代表団のプレゼンテーションに感動



中濱家とホワイトフィールド家の挨拶



両家の間での地球儀の交換

## 歓迎レセプション in 島根ワイナリー (7月3日)

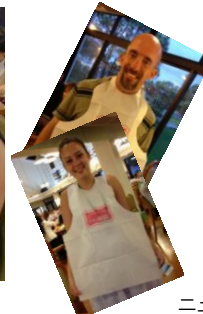
出雲大社でのオープニング式典の後は、場所をかえて島根ワイナリーで、バーベキューを囲んで歓迎レセプションが開催されました。



出雲神楽の披露



バーベキューに舌鼓



ニューヨーク島根県人会会長



藤原昌人



# 地域分科会ーホームステイ・プログラム (7月4日~7月7日)

7月4日午前、参加者は草の根サミット大会のハイライトである地域分科会へ出発。11の市町で行われる10の地域分科会に分かれ、ホームステイをしながらそれぞれの地域の方々と交流を深めました。  
( )カッコ内は参加者人数



1. 松江市(9)



2. 安来市(9)



3. 出雲市(8)



4. 出雲市平田地区(8)



5. 雲南市(3)



6. 奥出雲町(3)



7. 大田市(15)



8,9. 江津・浜田市(6)



10. 益田市(9)



11. 隠岐の島(13)



## ★参加者の声★

- 18歳の誕生日記念にと、父がサミットに誘ってくれて参加しました。日本の文化と日本語に興味を持ち出してから二年になり、ぜひ訪問してみたいと思っていました。今は、私が経験した日本文化と、日本でお会いした人々と恋に落ちたように感じています。この旅行が私の生涯を変えるものになります。間違いなく日本にもう一度帰ります。(K.M.さん・女性)
- 私のホストファミリーは美しく緑豊かな自然の中の農家でした。田んぼもたくさんありました。ホームステイはあまりに短すぎましたが、私は必ずホストファミリーと、ここで会った方々に再会するために戻ってまいります。(J.E.さん・男性)
- ごく日常的な事柄が、儀式や礼節までに昇華されていると感じました。店員による丁寧な包装、手の込んだ料理、食事作法、靴の揃え方、お風呂に入る手順など、すべての事が細心さを持って行われており感動しました。(E.C.さん・女性)
- サミットを通じて、通常の旅行では経験できないような食事、ホテル、催事を楽しむことが出来ました。しかし、もっと素晴らしい有意義だったことは、普通の日本人の生活に溶け込むことができたことでした。(J.M.さん・男性)



# クロージング式典 & フェアウェル・レセプション (7月7日)

地域分科会終了日、7日午後には参加者と、近隣のホストファミリーが松江イングリッシュガーデンに集合。午後4時半から、大会を締め括るクロージング式典とフェアウェル・レセプションが開催されました。

式典では、地域分科会の振り返りと、翌年のサンディエゴ・ティファナ大会の紹介もあり、交流の継続を期待させるものとなりました。

レセプションは、野外の芝生の上。ご当地ゆるキャラの「しまねっこ」「あっぱれ君」が大人気。加えて、「まつえ若武者隊」によるおもてなし、「松江城鉄砲隊・姉さま鉄砲隊」の演武、「松江ニューオーリンズ倶楽部」の演奏など、おおいに盛り上がりました。



有馬毅一郎 大会実行委員長



能海広明  
松江市副市長



ポール丸山 CIE-US 理事



鈴木敬子さんによる 2014 年サンディエゴ大会の PR



狩野務

ニューヨーク島根県人会名誉会長



式典の様子



## 島根出発、ポスト・サミット・オプショナル・プログラムへ (7月8日～)

7月8日、アメリカからの参加者たちは、たくさんの友達と思い出をつかった島根を後にしました。そのまま帰国した参加者は少数。ほとんどは、用意された4つのポスト・サミット・オプショナル・プログラムに参加して、さらに日本各地で文化体験や交流を深めたり、自身で日本を周遊したりしました。

島根の皆さんとは、しばしばお別れ。



京都&東京プログラム  
- 京都駅にて



広島・高知&東京プログラム  
- 高知にて



仙台&東京プログラム  
- 仙台にて



実行委員会の皆さん

**実行委員会委員：** 千家尊祐（出雲大社宮司）、溝口善兵衛（県知事）、松浦正敏（松江市長）、長岡秀人（出雲市長）、有馬毅一郎（しまね国際センター理事長）、雪吹重之（松江分科会）、仲佐伸夫（安来分科会）、藤原弘道（奥出雲分科会）、坪内邦至（雲南分科会）、柳楽正雄（出雲分科会）、加藤昇（平田分科会）、高橋泰子（大田分科会）、山崎一成（江津分科会）、榎山陽介（浜田分科会）、渋谷善明（益田分科会）、野辺一寛（隠岐分科会）、宮廻智美（松江市国際観光課長）、森脇雄二（出雲市国際交流室長）、内藤高彰（しまね国際センター常務理事）、藤原高博（島根大学国際交流課）、佐草利博（島根県立大学国際交流室長）、意東美恵子（松江商工会議所観光振興課課長補佐）、黒谷陽一郎（出雲商工会議所産業振興課長）、中澤信善（県商工労働部観光振興課国際交流グループリーダー）

**実行委員会事務局：** 島根県環境生活部文化国際課